



## 韓国

### 海外のホテル等予約サイトのトラブルに注意

● KCA ホームページ

[http://english.kca.go.kr/brd/m\\_11/view.do?seq=414&srchFr=&srchTo=&srchWord=&srchTp=&itm\\_seq\\_1=0&itm\\_seq\\_2=0&multi\\_itm\\_seq=0&company\\_cd=&company\\_nm=&page=1](http://english.kca.go.kr/brd/m_11/view.do?seq=414&srchFr=&srchTo=&srchWord=&srchTp=&itm_seq_1=0&itm_seq_2=0&multi_itm_seq=0&company_cd=&company_nm=&page=1) ほか

韓国では、海外の業者から商品等をインターネット通販で購入する消費者が急増している。統計では、2017年は2359万件（総額21億1024万ドル）に上り、件数で前年比36%増、金額では29%増である。それに伴い、苦情相談も増加している。

KCA（韓国消費者院）と全国1,400カ所あまりの消費者相談センターが運営している「クロスボーダー取引消費者ポータル」は、消費者の越境取引に関する苦情相談などを取り扱っているが、最近特に海外旅行の航空チケットやホテルのオンライン予約に関する苦情相談が増加しているという。同ポータルには2018年の1～3月で4,090件超（前年比86.5%増）の苦情が寄せられたが、そのうち海外の宿泊予約関連の苦情が1,074件（前年比345.6%増）、航空チケット予約関連は865件（同225.2%増）という激増ぶりだ。また、海外に拠点を置く

予約サイト（以下、海外予約サイト）に関する苦情1,864件のうち、シンガポールの業者が637件（749.3%増）と突出して多かった。ほとんどが二重予約トラブルで、カード会社からの決済通知で初めて被害に気づき、返金を求めたが拒否されたという消費者からの苦情によるものである。

KCAは、予約手続きの過程で決済の最終通知前に決済が実行されてしまい、返金にも応じない海外予約サイトが多いと消費者に注意喚起を行う一方で、業者に対して改善を要求している。さらに海外予約サイトに対して一連の改善措置を推進した結果、世界的規模の予約サイト2社が、韓国内に顧客サービスセンターを2017年8月と2018年4月に開設した。これにより消費者の権利と利益の向上に大きく貢献することが期待される、としている。



## イギリス

### 日焼け止めクリームの「耐水」表示に疑問

● Which? ホームページ <https://press.which.co.uk/whichpressreleases/sunscreen-resistance-claims-dont-hold-water/>

ほか

日焼け止めクリームには「耐水」と表示されているものが多いが、果たしてどの程度耐水性があるか、世界的に有名なブランドと国内のブランドの製品について、Which?がテストした。テストは、日焼け止めクリームを塗布した被験者が、20分×2回、間に15分の乾燥時間（タオルなどで拭かない）を挟み合計40分間、さまざまな環境を想定した水槽（①塩素入りの水②塩水③速い水流）に浸かった後、SPF値\*を計測する。

その結果、国内ブランド製品は塩水・塩素入りの場合でSPF値が34%下がり、有名ブランドの製品では、塩水や速い水流の場合で59%も下がるのが明らかになった。実際には、気温、汗、タオルで拭くなどの悪条件により、さらに値は下がり得る。

Which?は、現状の業界ガイドラインのテストは緩

やかに流れる水道水で行われるため非現実的であり、SPF値半減までは「耐水」表示が可能としているため、もはや意味が無いと批判している。信頼できる表示がなく、日焼け止めクリームを使用しながら日焼けのリスクにさらされる消費者に対し、Which?では小まめに塗りなおすようアドバイスしている。

諸外国の基準はより厳しく、例えばアメリカでは、40分間または80分間の同様のテスト（水温や室温その他も細かく規定）後、表示のSPF値を維持できなければ「耐水」の表示はできない。

イギリスでは毎年、約15,400人が死亡率の高いメラノーマ（皮膚がんの1つ）を発症する。日焼けは皮膚がんの大きな原因として挙げられており、Which?は、業界には厳格なテストと表示基準が求められるべきだとしている。

\* 肌に有害な紫外線をどれくらいの時間防ぐことができるかを表した数値



## オーストリア

### 海水塩のマイクロプラスチック含有量をテスト

● VKI『消費者』2018年6月号 <https://www.konsument.at/meersalz062018>  
● 商品テスト財団ホームページ <https://www.test.de/Speisesalz-Das-Maerchen-vom-Wundersalz-4612853-4612860/>

古くから岩塩の採掘が盛んだったオーストリアだが、近時は海水塩の人気の高まっている。海水塩の中でも、特に注目を集めているのが、希少で高価なことで知られる「塩の花」(Fleur de Sel)だという。日光と風で濃縮された塩田の表面に、最初に浮かぶ結晶である。

ところが、2018年1月のこと、ドイツ語圏の雑誌等が「塩の花」に含まれるマイクロプラスチックについて一斉に報じ、消費者を不安に陥らせた。ドイツの研究者が「塩の花」5商品をテストしたところ、全商品に通常の海水塩よりも多量のマイクロプラスチックが含まれていたからである。マイクロプラスチックとは、レジ袋やトレー容器等に由来するプラスチックの微小な破片・粒で、世界中の海に漂っていると報告されている。

そこで、VKI(オーストリア消費者情報協会)は、海水塩11商品(そのうち1商品が「塩の花」)を対象に、マイクロプラスチックの含有テストを行った。その際、岩塩1商品を比較対照品とした。

テストの結果、海水塩6商品に同物質が含まれていた一方で、岩塩からは予想どおり、プラスチック粒子はまったく見つからなかったという。また、驚くべきことに、今回テストした「塩の花」に含まれていたマイクロプラスチックは、極めて微量だったとのことである。

現時点では、マイクロプラスチックが人間の健康に及ぼす影響は未解明とされるが、海水塩を愛用する消費者は、塩に含まれる微小なプラスチックの存在を頭に入れておくよう、同協会は助言する。



## ドイツ

### 人間の健康に良いとは限らないビーガン化粧品

● エコ・テスト出版『エコ・テスト』2018年5月号 [https://www.oekotest.de/kosmetik-wellness/30-Vegane-Kosmetik-im-Test\\_110953\\_1.html](https://www.oekotest.de/kosmetik-wellness/30-Vegane-Kosmetik-im-Test_110953_1.html)

ベジタリアン(菜食主義者)の中でも、特に厳格な食生活を送る人たちはビーガン(完全菜食主義者)と呼ばれる\*。肉や魚はもちろんのこと、乳製品、卵、蜂蜜など動物由来のすべての食品を口にしない徹底ぶりである。しかも、対象は食品に限られず、皮革・毛皮製の衣服・靴、動物性素材を含む化粧品等も使わないという。このようなライフスタイルに着目し、最近増えているのがビーガン向け化粧品である。しかし、その実態が気になることから、『エコ・テスト』では、「ビーガン」「動物性素材を含まない」等の表示がある化粧品30商品をテストした。内訳は、①洗い流せるタイプ(シャンプー、シャワージェル) ②肌に残るタイプ(ローション、クリーム) ③メイク用品(マスカラ、ネイルカラー、口紅)を10商品ずつとした。

テストの結果、確かに<sup>みつろう</sup>蜜蝋、コチニール、ラノリン(羊毛脂)、絹など動物性素材は検出されなかった。しかし、これらの代替物として、疑義ある化学物質を添加する商品が目立ったという。特に、同誌が問題視するのがメイク用品である。カイガラムシから抽出されるコチニール色素の代わりに、アゾ系タール色素のタートラジン(黄色4号)、サンセットイエロー(黄色5号)を使う口紅が見つかった。また、発がん性との関連が指摘されるMOAH(芳香族炭化水素系鉱油)等も検出された。さらに、高濃度の重金属(鉛、アンチモン)を含む口紅、マスカラもあった。

同誌は、ビーガン化粧品が動物に優しいとしても、人間の健康にも良いとは限らないと結論づけている。

\* ウェブ版「国民生活」2016年3月号「海外ニュース」参照 [http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201603\\_09.pdf](http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201603_09.pdf)